

① 国家

1 国家形態の変遷

時代とともに国家の役割や形態は変化していき、現在では「**福祉国家**」とよばれる国家形態を展開している国が多く存在します。

絶対主義国家

王権神授説に基づき、王の権力が正当化された国家形態で、常備軍が配置され武力で相手を従わせることが可能であった

市民革命

夜警国家（立法国家）

国が行うのは国防や治安維持のみで**必要最小限の行政活動のみ**実行する

世界恐慌

福祉国家（行政国家）

国が国民の福祉向上のために、**積極的に国民生活に介入する**国家形態で、行政機能が肥大化し「**大きな政府**」とよばれる。経済学者の**J. M. ケインズ**は、政府が**積極的に**財政出動を行うことで**有効需要を創出**していくべきだと主張した。

2 福祉国家

福祉国家は、社会保障政策や完全雇用政策などを通じて国民の福祉を積極的に推進する国家のことです。各国では、下記のような政策が行われてきました。

	内容
19世紀	<ul style="list-style-type: none"> 工場法により労働者の長時間労働を規制（イギリス） ビスマルクが社会保険制度を導入（プロイセン）
20世紀	<ul style="list-style-type: none"> ベヴァリッジ報告（1942年）に基づき最低限度の生活（ナショナル・ミニマム）を保障（イギリス） サッチャー政権（1980年代）が国営企業を民営化するなど福祉政策を見直す（イギリス） 「第3の道」をスローガンにしたブレア政権（1990年代）が教育に関する政策を重視（イギリス）

重要人物 H. ウィーレンスキー

- その国の**経済水準**が**社会福祉水準**を決定する根本的原因である
- 経済水準が低い国では政府に対する福祉ニーズが生じ、政府はそれに応じて福祉プログラムを拡大していくので**福祉国家化**していく（収斂理論）

① 福祉国家の類型

G. エスピン＝アンデルセンは現代の福祉国家の多様性に注目し、3つの指標にもとづき、福祉国家を3つに類型化しました。

		社会民主主義型	自由主義型	保守主義型
① 脱商品化	社会政策を受給する際のハードル	高い	低い	やや高い
② 階層化	職業などによる社会保障の格差	低い	高い	高い
③ 脱家族化 (後に追加)	福祉面で家族に依存する程度	高い	中	低い
④ 代表例		スウェーデン	アメリカ	ドイツ

国によっては、これら3つの類型に当てはまらない場合もあります。イギリスは、社会民主主義型＋自由主義型とされており、**日本は、自由主義型（脱商品化が低い）＋保守主義型（階層化が高い）**であるとされています。

② 日本の福祉政策

日本では、戦後から福祉政策の拡充が図られてきました。1973年は**福祉元年**とよばれ、社会保障制度が重要な政策課題として考えられるようになった象徴的な年です。

1950年代	生活保護法の制定
1960年代	国民皆保険、国民皆年金の実現
1973年	<ul style="list-style-type: none">高齢者の医療費自己負担の無料化厚生年金や国民年金の給付額の増加

社会保障を支える仕組みは、財源に注目すると大きく「**公的扶助**」と「**社会保険**」に分けることができます。公的扶助は、困窮者の**資力を調査**した上で支援が必要かどうか判断されます。社会保険は、病気や怪我などの支給事由が生じた場合に資力などに関係なく支援を行う保障制度です。

③ 福祉国家を批判した学者

F. ハイエク	著書の『隷従への道』で、 社会主義 の計画経済や ケインズ経済学 を「計画主義的思考」として 批判
R. ノージック	著書の『アナーキー・国家・ユートピア』で、福祉国家が政策として行う「 所得の再分配 」は 個人の権利を侵害 するものであり、正当化される国家の存在は 最小国家 だと主張

3 国家論

「国家」という存在は、私たちにとってはどんな存在でしょうか？政治学の中では主に2つの考え方があります。

① 一元的国家論	国家の 絶対的な優位性を認める 考え方
② 多元的国家論	国家はあくまで社会全体の一部であり 国家の絶対的な優位性を認めないとする 考え方で、 第一次世界大戦後 から主張されるようになった

それぞれの国家論に関して、代表的な学者がいますので、その学者がどちらの立場なのか、主な主張内容を覚えておきましょう。

① 一元的国家論の学者

重要人物 G. W. F. ヘーゲル

自由でありながらも調和のとれた状態を**人倫**として、国家は「**人倫の最高形態**」である

② 多元的国家論の学者

重要人物 H. ラスキ

国家は、他の社会集団と同様に一定の機能を遂行する**集団**にすぎない

③ 階級国家論の学者

重要人物 K. マルクス

国家は、資本家階級が労働者階級を抑圧するための搾取機関である